

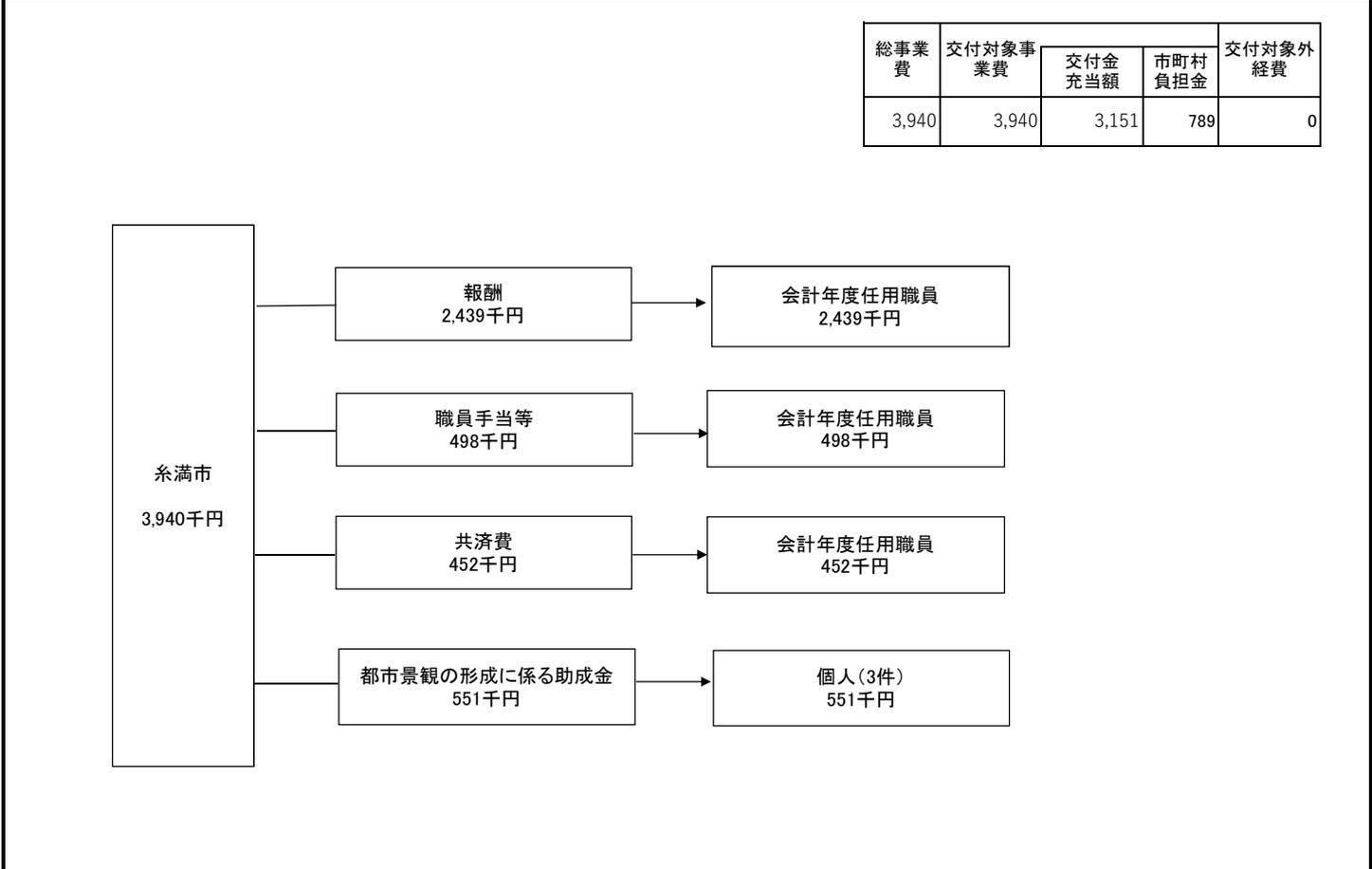
市町村名		糸満市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①		沖縄らしい風景づくり事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(5)-イ	
	担当部課名	建設部まちづくり課		事業実施(予定)年度		平成24年度～令和8年度	観光客の受入体制の整備
事業内容		風景づくり計画に基づく景観形成事業を実施することにより、観光地としての魅力向上を図る。					Ⅲ-1-(1)
	効果発現年度	■当年度 ■後年度(9年度)					
実施方法	■直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	39,440		8,542	34,928	7,990
		(b) 予算現額	36,794		7,625	34,928	4,313
		(c) 増減額(b-a)	-2,646	0	-917	0	-3,677
		(d) 繰越額	0	21,813	0	0	0
		A. 計(b+d)	36,794	21,813	7,625	34,928	4,313
	B. 執行済額		14,981	21,701	6,656	33,051	3,940
	うち交付金充当額		11,984	17,361	5,325	26,441	3,151
	次年度繰越額		0	21,813	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		40.7%	99.5%	87.3%	94.6%	91.4%
予算の状況の説明		当初想定よりも、都市景観の形成に係る助成金の申請が少なかったこと等より、負担金、補助金及び交付金等を3,667千円減額した。執行率は91.4%となっており、概ね予定通り執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	令和5年度以降の重点地区整備についての事前調整・検討	目標	()	()	()	(完了)	
		実績				完了	
	重点地区景観形成への支援(都市景観形成)(屋根瓦等の工事に係る助成金)	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
実績		実施	実施	実施	実施		
達成状況説明	・令和5年度以降の重点地区整備についての事前調整・検討を実施した。 ・重点地区景観形成への支援を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(9年度)
	令和5年度以降の整備箇所の設定	目標	()	()	()	(設定)	()
		実績				設定	
	助成金による景観整備の完了	目標	()	(5件)	(5件)	(8件)	()
		実績		4件	3件	3件	
【R9成果目標】 対象者のうち大多数が観光地としての景観形成が図られたと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。	目標	()	()	()	()	(80%以上)	
実績							

進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度以降における整備箇所を検討した。 目標は達成できなかったが、重点地区景観形成への支援を3件実施した。
--------	--

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>(魅力的な観光地として観光客等へのアンケート)</p> <ul style="list-style-type: none"> 重点地区の施設整備を完了した場所に関しては、沖縄らしい風景を感じることができたようだが、周辺地域が一体となって沖縄らしい風景となっていないことから、今後も整備を行う必要性は高いと考える。 <p>(景観形成に係る助成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観形成に係る助成において、目標の8件に届かず3件の助成となった。 要因として、建築価格の高騰が大きいと考えられる。琉球赤瓦の相談及び申請が無く、R4年度の申請は生垣等の工事(緑地)のみであった。 	<p>(重点地区の施設整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> 沖縄らしい風景やまちなみ復元のため、糸満重点地区の門小の整備を行ってほしい。 <p>(景観形成に係る助成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観形成に係る助成については、例年目標を下回っており、観光地の魅力度を図るうえでも、目標の達成が必要である。沖縄らしい風景を形成するには、琉球赤瓦の景色は必要であるが、建設コスト及び維持管理コストが課題となっている。風景を保全するため、沖縄らしい風景(概要)の周知を図るよう努めたい。

今後の取り組み方針
<p>重点地区の整備)</p> <p>字糸満の重点地区において、イービンメン門の整備を行うため実施設計を行う。</p> <p>(景観形成に係る助成)</p> <p>引き続き重点地区の景観形成の向上を図るため、ホームページや広報誌などへ掲載の実施を行う。</p> <p>条例に基づく景観申請に訪れた施主様に、赤瓦の魅力や沖縄らしい風景づくりの先進事例(首里等)の説明を行い、街づくりへの理解を深める取組を実施する。</p>

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予算額の約92%を執行しており、適正な規模であったと思われる。 ○ 風景づくりの景観形成に基づく公園整備や支援をしており、目的に即し、必要なものと判断している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

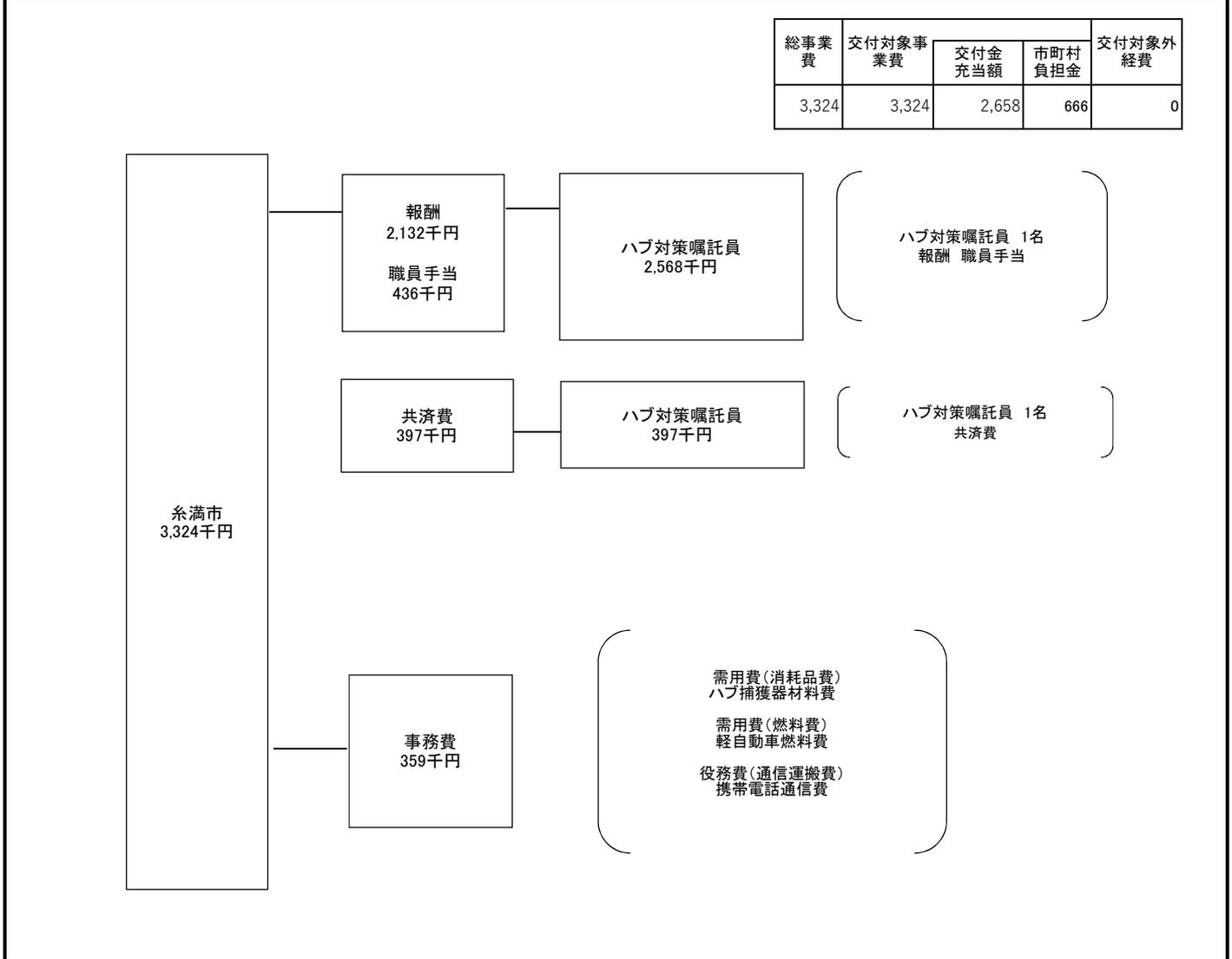
市町村名	糸満市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	観光地危険生物駆除事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(4)-ア		
担当部課名	市民健康部 市民生活環境課	事業実施(予定)年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	危機管理体制の強化		
事業内容	観光客のハブ咬傷の危険性を除去し安全を確保するため、ハブを生息地域を把握し、ハブ捕獲・駆除を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d)		2,640	2,681	3,130	3,352	3,423
			2,640	2,681	3,130	3,352	3,437
			0	0	0	0	14
			0	0	0	0	0
			2,640	2,681	3,130	3,352	3,437
	B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額		2,598	2,617	3,060	3,333	3,324
			2,078	2,093	2,447	2,666	2,658
			0	0	0	0	0
		執行率 (%) (B/A)	98.4%	97.6%	97.8%	99.4%	96.7%
予算の状況の説明	令和4年度は執行率が96.7%となっており、当初計画通りに予算執行することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	ハブ捕獲器の設置	目標	(150基)	(150基)	(150基)	(150基)	
		実績	130基	175基	200基	200基	
	ハブ生息地の調査	目標	(調査箇所15カ所)	(調査箇所16カ所)	(調査箇所15カ所)	(調査箇所15カ所)	
実績		調査15カ所完了	調査16カ所完了	調査17カ所完了	調査20カ所完了		
達成状況説明	ハブ生息地において、過去の捕獲実績に基づき調査(延べ20カ所)を行った。また、市内主要観光地におけるハブ捕獲器の設置を重点的に配置した。経年劣化したハブ捕獲器については、補修や修繕を行い、延べ230基を保有している。その内、150基を観光地や生息地である喜屋武岬やロンドンガマ周辺、大度浜海岸の周辺等へ設置し、生息密度を下げるため観光地周辺の民有地(三和地区・高嶺地区)においても50基設置している。また、緊急時でも対応できるように30基はストックとして保管している。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	観光客のハブの咬傷被害件数2件	目標	()	(2件以下)	(2件以下)	(2件以下)	()
		実績		4件	0件	2件	
	【参考指標】 ハブ及びサキシマハブ捕獲率 (捕獲数/捕獲器設置数)	目標	()	()	()	()	()
実績			52% (91匹/175基)	41.5% (83匹/200基)	37% (74匹/200基)		
進捗状況説明	令和4年度の成果目標は観光客のハブ咬傷被害件数2件以下としており、実績として糸満市で被害件数が2件発生した。2件とも観光施設での被害ではなかった(庭、畑)が、観光施設においてもハブの咬傷被害が発生する懸念があるため、今後も事業継続する必要がある。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 当該年度中にハブ咬傷被害が2件発生した。2件とも観光施設での被害ではなかった(庭、田畑)が、観光施設での発生も懸念される。 事業実施によってこれまでハブを捕獲してきたが、現在も市民からハブの目撃情報が寄せられているため、観光地においても相当数のハブが生息していると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度においては、コロナウイルスオミクロン株の影響で年度途中までは、観光客減少によるハブの咬傷被害件数がなかったことも考えられるが、今後も引き続きハブによる咬傷被害を出さないようにするため、ハブが生息していると考えられる場所に捕獲器の設置、看板の設置及び調査を継続して行っていく。 捕獲器の設置については、目撃情報等を検証し、適切な場所や時期を考察して設置していく。 ハブが移動し観光地付近に来ることも考えられるため、今後はハブをよく見かける地域にハブ捕獲器を貸し出し(借着者が管理)することを検討する。

今後の取り組み方針

・コロナ禍が収束に向かっており、今年度から旅行者も増加してくるので、ハブ咬傷被害にあわないように、継続的に事業を実施していきたい。ハブの生息箇所の調査、看板の設置、ハブ捕獲器の設置を引き続き行い、ハブの咬傷被害の減少に向けた取り組みを行っていく。
 ・ハブ駆除においては、ハブ咬傷被害件数の減少を目標に掲げ、被害件数が増加しないように観光地周辺の安全安心を確立していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法について、ハブ対策嘱託員は同様事業での経験豊富な者を任用しており、消耗品等購入先も妥当と認められる。 ○執行残額は5%以内であり、適切な予算規模である。 ○費目、用途については、書類等で確認しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市							
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-②	糸満イベント推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-7		
担当部課名	経済部 観光・スポーツ振興課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及			
事業内容	地域の伝統芸能の保存継承、平和に対する意識の向上及び観光誘客を図るため、糸満ふるさと祭りへの支援を行う。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	16,751	7,080	0	0	18,000	
		(b) 予算現額	17,951	7,080	0	0	18,000	
		(c) 増減額(b-a)	1,200	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	17,951	7,080	0	0	18,000	
	執行状況	B. 執行済額	17,894	7,080	0	0	18,000	
		うち交付金充当額	14,315	5,664	0	0	14,400	
		次年度繰越額	0	0	0	0	0	
		執行率(%) (B/A)	99.7%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	100.0%	
	予算の状況の説明	令和4年度は執行率が100%となっており、当初計画通りに予算執行することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	・糸満ふるさと祭りに係る運営費の補助 糸満ふるさと祭り 日程:令和5年1月 会場:南浜公園多目的市民広場等 内容:地域伝統芸能、一般団体演舞、県内アーティストステージイベントなど		目標	(補助実施)	(補助実施)	(補助実施)	(補助実施)	
			実績	補助実施	コロナ禍により補助なし	コロナ禍により補助なし	補助実施	
			目標	()	()	()	()	
			実績					
	達成状況説明	・令和4年度は、糸満ふるさと祭りの会場や時期を次のとおり変更し実施。 開催日:令和5年1月14日(土)、15日(日) 開催場所:南浜公園多目的市民広場						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	糸満ふるさと祭り 来場者数:10,000人		目標	()	()	()	(10,000)	()
			実績				9,000	
			目標	()	()	()	()	()
			実績					
		進捗状況説明	・初日は天候にも恵まれ多くの方に来場(5,500人)いただいたが、2日目は、曇り／雨の中での開催となったため来場(3,500人)が減ったため、合計9,000人と目標は達成できなかった。					

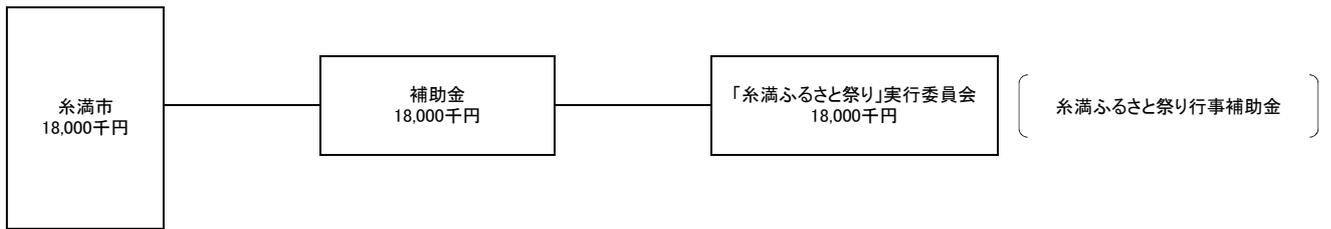
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 来場者数の目標が達成できなかった要因として、開催時期の天候不良が主な要因と考えられる。 また、実行委員会が行ったアンケート結果において、開催場所から駐車場が遠いという意見も多くあったことから、このことも一つの要因と考慮される。 成果目標を達成しておらず、広報が十分でなかったことが考慮される。 	<ul style="list-style-type: none"> 開催時期については、台風や寒さ、熱中症等を勘案し、年度当初から実行委員会において協議し決定していく。 開催場所については、市街地での交通渋滞や、駐車場からの距離等を勘案してピックアップし、実行委員会で協議していく。 市民・観光客に対してイベントの周知を図っていく必要がある。

今後の取り組み方針

- 天候に左右される課題について、実行委員会にて開催場所や時期を協議し解決を図っていく。
- また、ウイズコロナという観点を踏まえ、前年度同様、祭り運営方法を検討していく。
- 企画・運営を前年度同様に民間事業者へ委託することで民間目線でのイベント実施により、運営の効率化や観光客を含めた来場者の満足度向上へつなげていく。
- 糸満市のSNS(市HPやInstagram等)において周知を実施していく。また、市内各施設にイベント啓発ポスターを掲示しチラシを配布する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
18,000	18,000	14,400	3,600	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと祭りは実行委員会が事業主体となっており、イベントの準備から実施・撤収まで運営している実行委員会を補助事業者として充てるのは適正である。 不用額がでておらず、予算規模は適正であった。 費目、用途については、実績報告を受け、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであった。 実行委員会も自助努力により、協賛金等を集め負担していることから、負担関係も妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	観光地公園環境美化強化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(1)-ウ		
担当部課名	建設部 建設課	事業実施(予定)年度	令和4~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	人と環境に優しいまちづくりの推進		
事業内容	観光客が多く訪れる西崎運動公園及び市内公園の植栽整備、美化清掃等を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		9,460				
			9,460				
			0				
			0				
			9,460				
	B. 執行済額		9,441				
	うち交付金充当額		7,553				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		99.8%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		令和4年度は執行率が99.8%となっており、当初計画通りに予算執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
		目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	・観光地公園環境美化委託業務	目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・観光地公園環境美化事業を実施した。 ・当初計画通りに観光地公園の環境美化、草花の植栽を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
		目標	()	(80%)	()	()	()
		実績		85%			
		目標	()	()	()	()	()
	観光地としてふさわしい景観であるか(80%以上)を含め、観光客を対象としたアンケートにより、本事業のあり方について検証する	実績					
		目標	()	()	()	()	()
進捗状況説明	・西崎運動公園等の観光地公園を訪れたスポーツ団体等にアンケートを依頼し、観光地としてふさわしい景観であるか検証した結果、85%の方がふさわしい景観であると回答したことから、目標を上回る結果が得られた。						

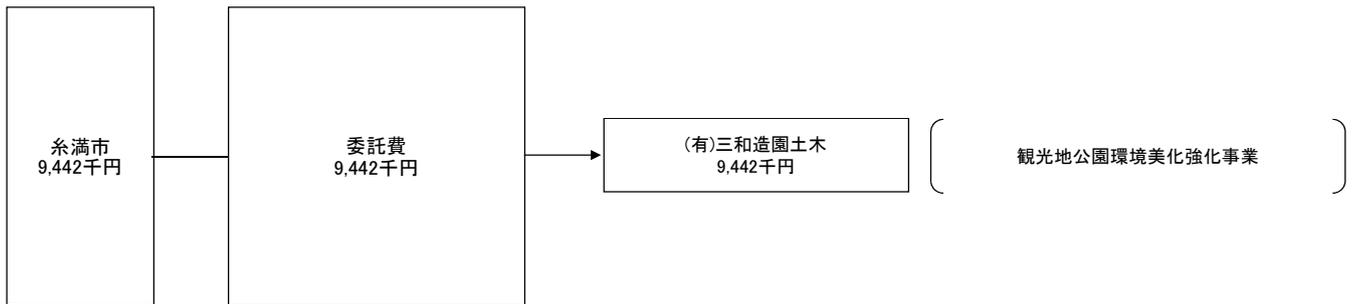
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・キャンプやイベント等で多くの人が訪れる時期に合わせて草花を植栽しているが、開花時期に合わせての植栽の調整などが難しい。	・キャンプ誘致、イベント実施担当部署との連携を取りながら、草花の開花期に合わせて効果的な植栽を実施する。

今後の取り組み方針

・令和4年度については各公園1回の環境美化と草花の植栽だったが、次年度以降2回以上実施できるよう取り組んでいく。
 ・沖縄の観光地らしく、時期に合わせて南国独特の花木(ハイビスカス等)を植栽する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
9,441	9,441	7,553	1,888	0



資金の 用途の 流れ、 点検、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○執行率99.8%であり、適正な規模であった。 ○費目・用途については、額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	確かな学力を育むサポート事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア	
担当部課名	教育委員会 教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身に付ける学校教育の充実 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	学習の遅れからくる劣等感等で不登校になる事案もあり、学習支援や学校生活への不適應の児童生徒を指導するなど学力向上と登校復帰を図るため、学校現場へ学習・自立支援員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	44,760	44,147	42,265	51,673	52,474
		(b) 予算現額	44,760	44,147	43,475	51,673	39,615
		(c) 増減額(b-a)	0	0	1,210	0	▲ 12,859
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	44,760	44,147	43,475	51,673	39,615
	B. 執行済額		38,837	33,393	41,705	38,466	38,362
	うち交付金充当額		31,069	26,713	33,364	30,773	30,689
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		86.8%	75.6%	95.9%	74.4%	96.8%
予算の状況の説明		・当初、23人の配置を予定していたが、3月補正にて約3人分の予算12,859千円を減額した。 ・執行率が96.8%となっており、予算通りの執行を行うことができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	学習指導等支援員配置数 小学校:13名	目標	(10名)	(10名)	(10名)	(13名)	
		実績	18名	14名	14名	13名	
	学習指導等支援員配置数 中学校:10名	目標	(6名)	(6名)	(6名)	(10名)	
		実績	9名	9名	9名	9名	
達成状況説明		・学習支援を必要とする児童生徒に対し、学校現場へ学習支援等支援員を配置・支援し課題解決に向けての取り組みを行った。 ・市内小学校10校へ13名、中学校6校へ9名の学習支援等支援員を配置した。 ・中学校の活動目標について、公募を図ったが応募がなく欠員が生じたため、目標の10名に届かなかった。 ・年度当初および学期ごとに研修会を開催し、資質向上を図った。(実施回数:3回)					
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	県学力到達度調査の県平均との差 小学校算数 0%	目標	()	(0%)	(0%)	(0%)	()
		実績	/	-0.5%	2%	-0.3%	/
	県学力到達度調査の県平均との差 中学校数学 -1%	目標	()	(-1%)	(-1%)	(-1%)	()
		実績	/	-0.3%	1.9%	-0.2%	/
	進捗状況説明		・令和3年度県学力到達度調査の県平均との比較において、小6算数は「2%」となっていたが、令和4年度は「-0.3%」で目標値と前年度の結果を共に下回る結果となった。 ・令和3年度県学力到達度調査の県平均との比較において、中2数学は「1.9%」となっていたが、令和4年度は「-0.2%」で目標値を達成することはできたが、前年度の結果を下回る結果となった。				

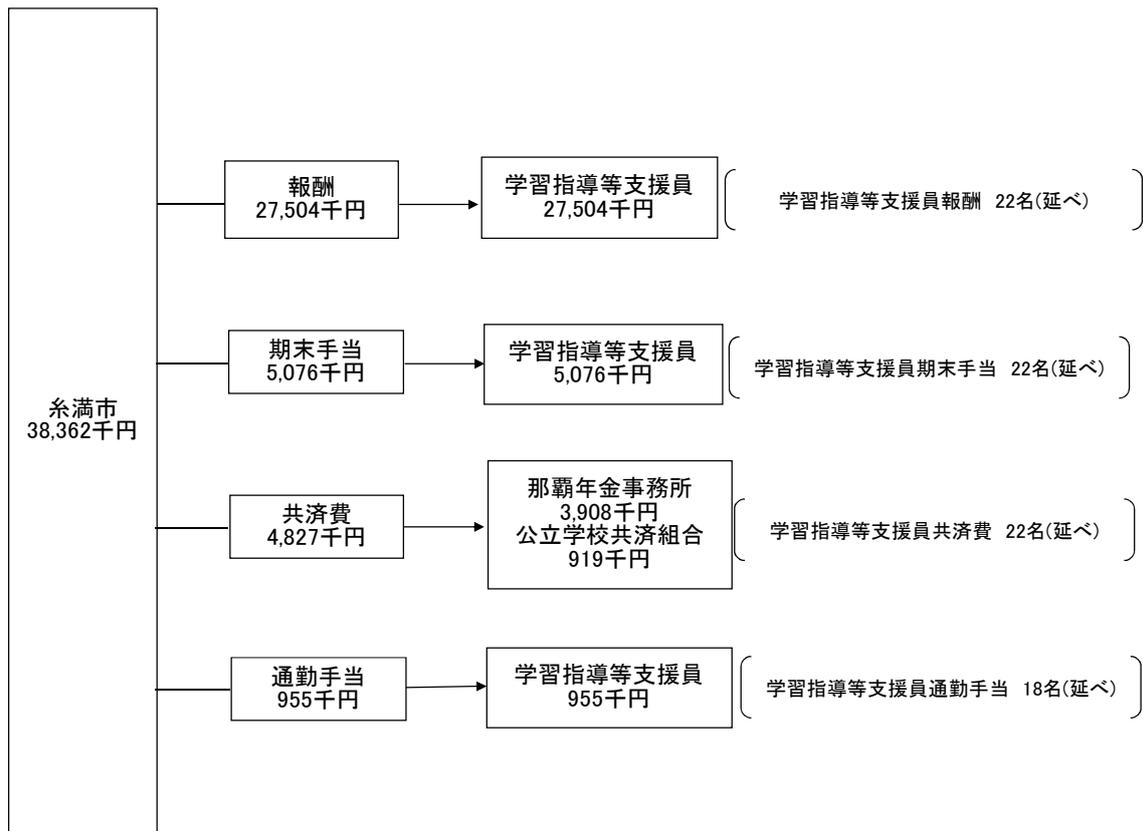
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の習熟の程度や興味・関心等の違いが生じやすい授業を中心に、1人の教師による一斉指導ではカバーしきれない部分を補充する必要がある。 沖縄県全体として、病休等によって教員不足が生じている。その影響から、令和4年度は、学習指導等支援員のうち2人が臨時的任用教員になるため、学習指導等支援員を辞職し欠員が生じた。 近年、ICT教育推進の影響によって、タブレットを活用した授業が多くみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> チームティーチングによって、児童生徒一人一人の個性に対応した指導を実施するよう教師と学習指導等支援員の連携強化を図る。 教育現場で情報収集を行い、実態把握に努める。 タブレットを活用した授業に係る研修会の開催を検討する。

今後の取り組み方針

- 児童生徒の習熟度を熟知し、必要な個別指導を行う。
- 教育現場の実態把握のため、沖縄県教育委員会と情報連携を密にしていく。
- 授業に係る事前の打合せ時間を確保するため、研修会の開催数を年3回から年2回とし、うち1回をタブレットを活用した研修とする。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
38,362	38,362	30,689	7,673	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○学習指導等支援員は、公募・面接を経て教員資格を有した人材を採用する等、事業成果を効果的に達成できるような人材を任用している為、支出先(会任職)の選定は妥当と考えている。 ○配置数・報酬額について、本市の条例や規則に基づき、学校数、児童生徒数、職種専門性等を考慮した設定を行っている。その為、予算規模は事業内容に見合った適正な規模であると考えられる。 ○費目・使途については、会任職を学校現場へ配置する為の必要経費に限定し、出勤簿や業務日誌等を確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	英語指導事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-(ア)		
担当部課名	教育委員会 教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の推進		
事業内容	英語指導を通したコミュニケーション能力と国際感覚を身につけた人材育成を図るため、小中学校の英語授業における英会話指導、発音指導や学級での質の高い英語指導をサポートする英語指導助手を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	23,178	20,712	26,758	30,069	29,550
		(b) 予算現額	23,178	20,712	28,136	30,069	24,282
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	1,378	0	▲ 5,268
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計 (b+d)	23,178	20,712	28,136	30,069	24,282
	B. 執行済額		19,524	20,180	27,038	25,205	23,439
	うち交付金充当額		15,619	16,143	21,630	20,164	18,750
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		84.2%	97.4%	96.1%	83.8%	96.5%
予算の状況の説明		・当初、7人の配置を予定していたが、3月補正にて約1人分の予算5,268千円を減額した。 ・執行率が96.5%となっており、予算通りの執行を行うことができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	英語指導助手配置数 小学校:4名	目標	(4名)	(4名)	(4名)	(4名)	
		実績	4名	4名	4名	4名	
	英語指導助手配置数 中学校:3名	目標	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	
		実績	3名	3名	3名	3名	
達成状況説明		・市内小学校11校に4名、中学校7校に3名を配置している。(分校含め左記人員数で、各校を巡回する体制をとった。) ・英語指導に関する研修会を開催し、資質向上を図った。(実施回数:12回)					
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	・小学生 英語に対する興味・関心が高まったか(85%以上)を含め、本人へのアンケートにより本事業のあり方の検証	目標	()	(85%)	(85%)	(85%)	()
		実績	/	95%	100%	100%	/
	・中学生 沖縄県学力到達度調査(英語)での県平均正答率との差 -1%	目標	()	(-1%)	(-1%)	(-1%)	()
		実績	/	-0.3%	0.9%	-0.3%	/
	進捗状況説明		・小学生へ英語に対する興味・関心が高まったかについて、アンケート調査を実施した結果、「100%」と目標値を達成した。 ・沖縄県学力到達度調査(英語)の本市平均正答率と県平均正答率との比較において、「-0.3%」と目標値を達成した。				

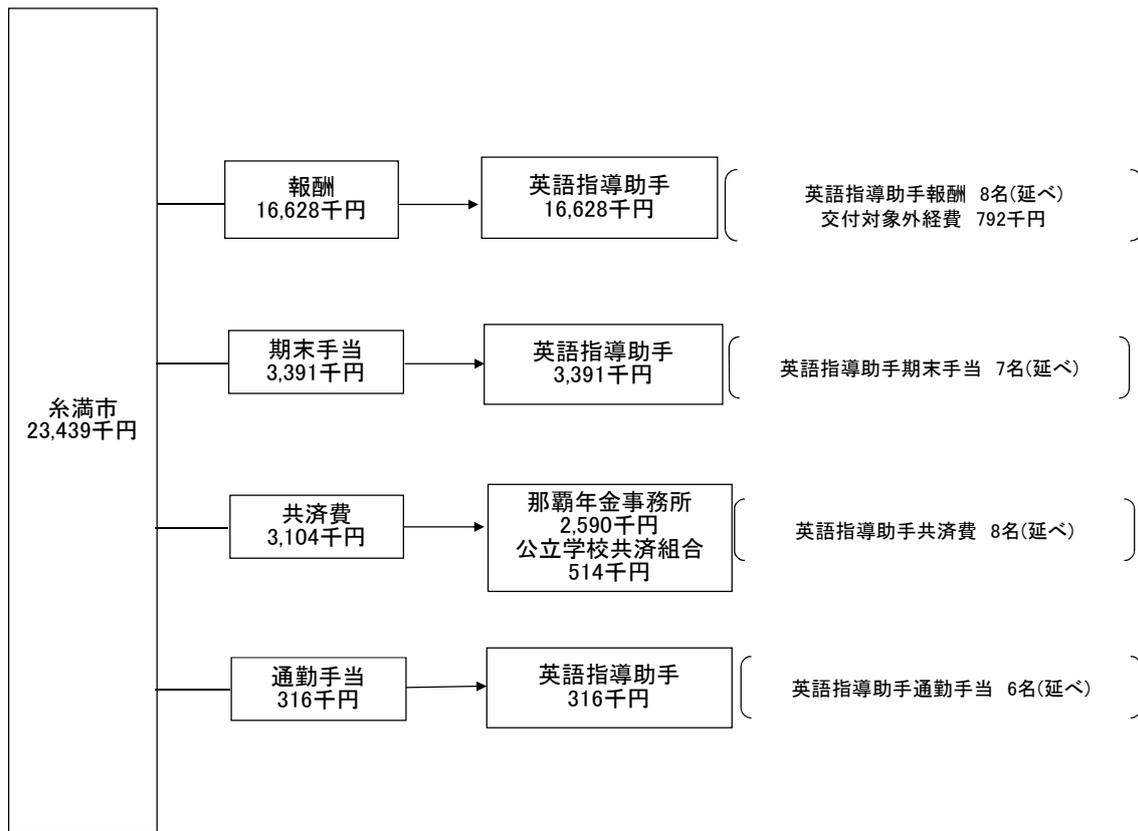
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 現在の配置人数では、英語指導助手により最大3校を受け持っているため、児童生徒との距離が縮めにくく、それぞれの個性に対応した指導をすることが難しい。 中学校の成果目標について、目標値を達成したが、令和3年度の実績と比較して下回っている現状である。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一人の個性に対応するため、英語指導助手と教師間のミーティング時間を確保する必要がある。 英語の授業のみならず普段の学校生活において、英語を活用する機会を創出し、日常的に英会話をする習慣を身に付ける。

今後の取り組み方針

- 英語指導助手と教師間のミーティング時間を確保していくため、委員会主催の研修会を年9回実施する。
- 英語指導助手を一校に集結し、学校全体で一日中英語のみで会話をする「Englishday」のようなイベントの実施を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
24,231	23,439	18,750	4,689	792



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○英語指導助手は、公募・面接を経て教員資格を有した人材を採用する等、事業成果を効果的に達成できるよう人材を任用している為、支出先(会任職)の選定は妥当と考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○配置数・報酬額について、本市の条例や規則に基づき、学校数、児童生徒数、職種専門性等を考慮した設定を行っている。その為、予算規模は事業内容に見合った適正な規模であると考えられる。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、会任職を学校現場へ配置する為の必要経費に限定し、出勤簿や業務日誌等を確認し適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	適応指導教室設置事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-イ	
担当部課名	教育委員会 教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心と健やかな体を育む学校教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	心理的・情緒的要因による不登校の児童生徒の登校復帰・授業支援を図るため、適応指導教室を設置し、学校・関係機関の連携強化、学校巡回による教育相談を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 <small>(「交付金」+「市町村負担」ベース)</small>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,726	7,826	8,843	10,079	12,422
		(b) 予算現額	6,726	7,826	9,009	10,079	9,732
		(c) 増減額(b-a)	0	0	166	0	▲ 2,690
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	6,726	7,826	9,009	10,079	9,732
	執行額	B. 執行済額	6,079	4,274	8,954	7,385	9,177
		うち交付金充当額	4,863	3,418	7,163	5,908	7,341
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		90.4%	54.6%	99.4%	73.3%	94.3%
予算の状況の説明		・当初、5人の配置を予定していたが、3月補正にて約1人分の予算2,690千円を減額した。 ・不用額554千円については、欠員や年度途中での退職者によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	適応指導教室 主任担当者配置数:2名	目標	(1名)	(1名)	(1名)	(2名)	
		実績	1名	1名	1名	2名	
	適応指導教室 補助担当者配置数:1名	目標	(1名)	(1名)	(1名)	(1名)	
		実績	1名	1名	1名	1名	
	適応指導教室 教育相談員配置数:2名	目標	(2名)	(2名)	(2名)	(2名)	
実績		1名	2名	2名	2名		
達成状況説明	・主任担当者で、1名欠員が生じた。(R4.4月で採用するが、12月に退職。) ・補助担当者で、1名欠員が生じた。(R4.7月で採用するが、11月に退職。) ・関係機関との連絡会を開催した(年12回)。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	・適応指導教室へ通室している児童生徒のうち学校復帰できた児童生徒の率 35%	目標	()	(35%)	(35%)	(35%)	()
		実績		68%	75%	64%	
	目標	()	()	()	()	()	
	実績						
進捗状況説明	・適応指導教室へ通室している児童生徒のうち学校復帰できた児童生徒は64%(14人中9人)となり目標値を達成した。						

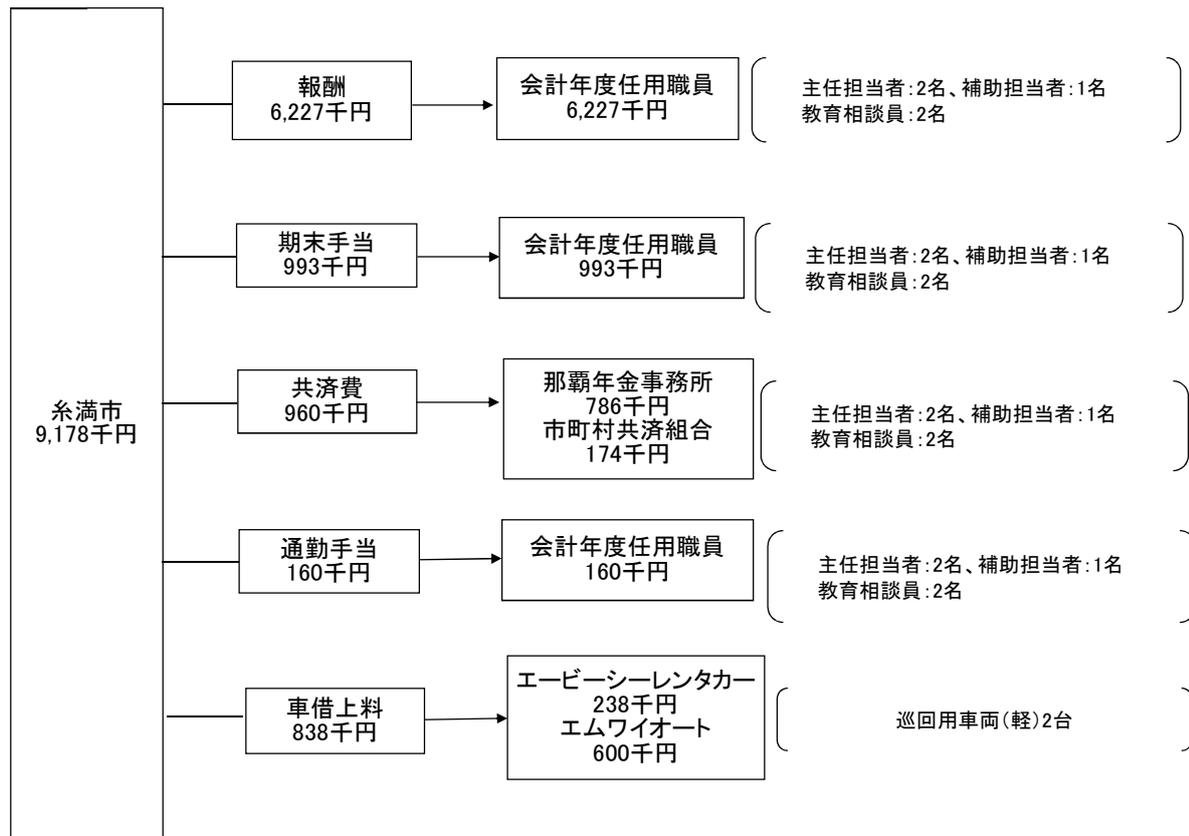
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・成果目標は達成できたが、昨年度の成果指標の数値を下回る結果となった。 ・近年、不登校に陥る心理的・情緒的要因が、多様化及び複雑化している傾向がみられる。 ・家庭環境の影響から不登校となる児童生徒については、対応が困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は、欠員が多い状況があったため、市HPIに加えてもっと多くの媒体によって、募集を図る。 ・多種多様な専門職(公認心理師、精神保健福祉士)を交え、不登校となる要因を特定する。 ・家庭環境に不安のある児童生徒について、県や市との連携を強化し対応していく。

今後の取り組み方針

- ・欠員について、ハローワークを活用する。また、退職予定の教諭に本事業を周知する。
- ・連絡会の際、市教育委員会の指導主事や公認心理師とチーム会議を開催していく。
- ・県児童相談所や市の担当部署と連携強化し、家庭環境の不安排除に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,177	9,177	7,341	1,836	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○教育相談員等は、公募・面接を経て教員資格を有した人材を採用する等、事業成果を効果的に達成できるよう人材を任用している為、支出先(委任職)の選定は妥当と考えている。 ○配置数・報酬額について、本市の条例や規則に基づき、学校数、児童生徒数、職種専門性等を考慮した設定を行っている。その為、予算規模は事業内容に見合った適正な規模であるとする。 ○費目・用途については、適応指導教室のための必要経費に限定し、支出に関する書類を確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-④		障害児学習環境づくり事業(小中学校)		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-エ	
	担当部課名	教育委員会 教育部 学校教育課		事業実施 (予定)年度	平成24~令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	時代の变化に対応する魅力ある学校づくりの推進 Ⅲ-3-(1)
事業内容	発達障害を含む様々な障害を持つ児童生徒に支援ヘルパーを配置する。また、こども園等他機関との連携や学校での取り組みなどを多方面からの支援が必要であることから、特別支援教育指導コーディネーターを配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a)当初予算額	64,976	63,144	67,739	74,792	61,589
		(b)予算現額	64,976	63,144	63,602	74,792	51,139
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲ 4,137	0	▲ 10,450
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	64,976	63,144	63,602	74,792	51,139
	B. 執行済額		51,120	49,743	61,116	60,619	46,900
	うち交付金充当額		40,896	39,794	48,892	48,495	37,520
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		78.7%	78.8%	96.1%	81.1%	91.7%
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・当初、33人の配置を予定していたが、欠員や年度途中での退職者が生じた為、3月補正にて約4人分の予算10,450千円を減額した。 ・不用額4,238千円については、実績に基づく共済費・賃金・通勤手当の支払い残額によるもの。 					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	市内小中学校16校へ特別支援教育支援員配置(29人)		目標 (38人)	(38人)	(38人)	(29人)	
			実績 (こ:7人小:23人、中:7人)	(こ:9人、小:23人、中:7人)	(こ:7人、小:23人、中:6人)	27人	
	特別支援教育指導コーディネーター配置(1人)		目標 (1人)	(1人)	(1人)	(1人)	
		実績 1人	1人	1人	1人		
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校への特別支援教育支援員の配置について、2名欠員が生じた。また、年度途中での退職者も生じた。 ・特別支援教育指導コーディネーターの配置人数が目標値に達した。 ・年度当初および学期ごとに研修会を開催し、資質向上を図った。(実施回数:3回) 					
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	・対象となる児童生徒の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応への満足度(85%以上)を含め、保護者へのアンケートにより本事業のあり方の検証		目標 ()	(85%)	(85%)	(85%)	()
			実績	96%	100%	100%	
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・対象児童生徒の保護者へアンケートを実施。特別支援員の対応について満足度調査を行い、満足度が100%となり目標を達成できた。 					

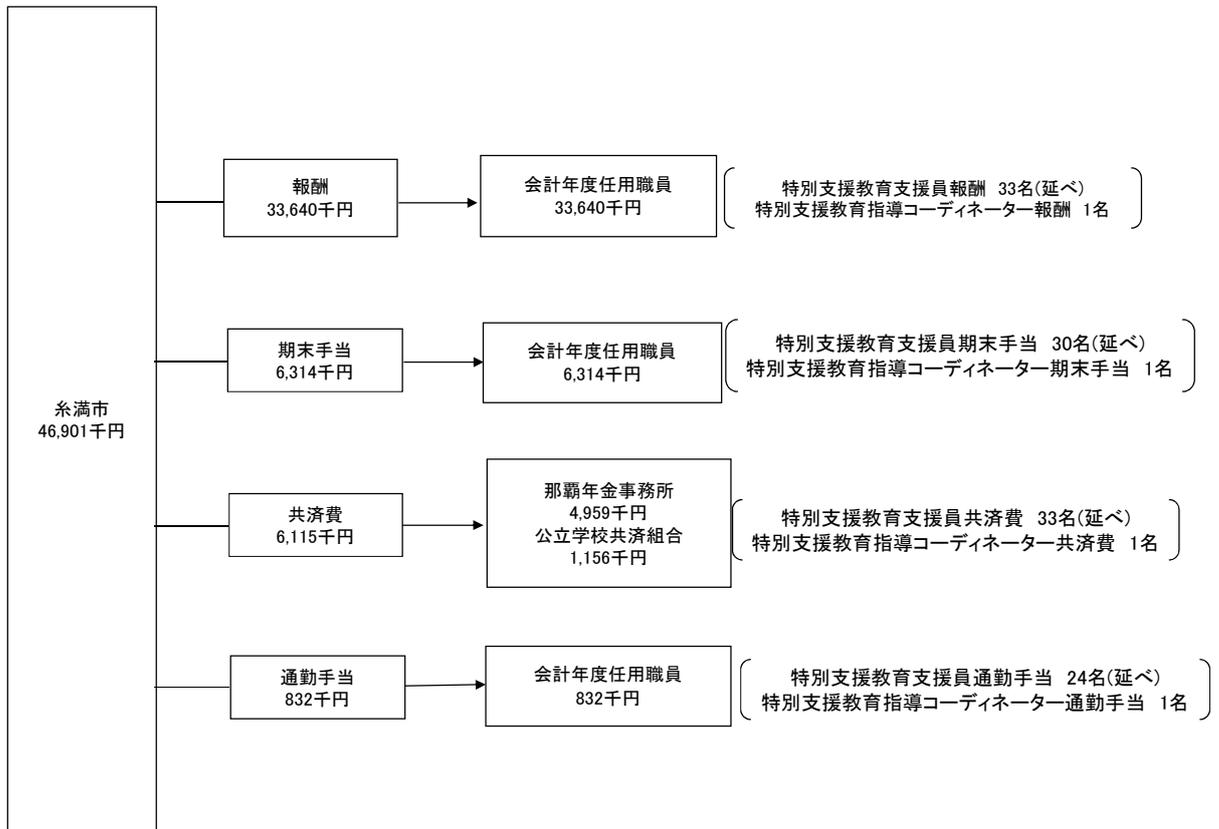
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 学校からの特別支援教育支援員の配置申請が年々増加しており、令和4年度は283件の申請があった。今後も増加してことが予想される。 発達障害等、子の特性が多様化複雑化していることから、児童生徒一人一人の特性を理解していく必要性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育支援員の配置申請の増加を抑えるため、教諭が、特別支援教育や発達障害等に関する理解を深め、子に対して適切な対応を可能とするような取り組みを検討する。 児童生徒一人一人の特性を理解していくために、特別支援教育支援員が、学校所属の特別支援コーディネーターや担任教諭と綿密に校内ミーティングできるような環境を整える。

今後の取り組み方針

- 学校現場の教諭を対象とした、特別支援教育指導コーディネーターや公認心理師による特別支援教育に関する勉強会の開催を検討していく。
- 特別支援教育支援員について、一律の研修会の開催数を減らし、校内ミーティングの時間を確保していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
46,900	46,900	37,520	9,380	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育支援員は公募・選考によって、また特別支援教育指導コーディネーターは、県立特別支援学校の教頭経験者を任用しており、事業執行に適切な人材となっている為、支出の選定方法は、妥当であると考え。 ○配置数・報酬額について、学校規模・支援対象児童生徒数に応じて、1校当たり1人～4人を配置し、事業内容に見合った適正な規模であると考え。 ○費目・用途について、小中学校・市教委へ会任職を配置する為の必要最小限のものに限定し、出勤簿や業務日誌を確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑤	障害児学習環境づくり事業(こども園)			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-エ 時代の変化に対応する魅力ある学校づくりの推進	
担当部課名	こども未来部 保育こども園課	事業実施(予定)年度	平成30~令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	III-3-(1)	
事業内容	認定こども園に特別支援ヘルパーを配置し、発達障害を含む様々な障害を持つ園児の支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	64,976	63,144	67,739	74,792	13,957
		(b)予算現額	64,976	63,144	63,602	74,792	11,300
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲ 4,137	0	▲ 2,657
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	64,976	63,144	63,602	74,792	11,300
	B. 執行済額		51,120	49,743	61,116	60,619	11,121
	うち交付金充当額		40,896	39,794	48,892	48,495	8,896
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		78.7%	78.8%	96.1%	81.1%	98.4%
予算の状況の説明		・当初、9人の配置を予定していたが、採用難から8人の雇用となり、不要見込みとなった▲2,657千円について3月補正にて減額した。 ・執行率が98.4%となっており、予算通りの執行を行うことができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	・特別支援ヘルパー(9人)を認定こども園へ配置		目標 (38人) 実績 (こ:7人小:23人、中:7人)	(38人) (こ:9人、小:23人、中:7人)	(38人) (こ:7人、小:23人、中:6人)	(9人) 8人	
			目標 ()	()	()	()	
			実績				
達成状況説明	・特別支援ヘルパーについて年中通して募集を行ったが、十分な人数が確保できなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	・対象となる園児の保護者へのアンケートで、特別支援ヘルパーの対応への満足度(100%以上)を含め、保護者へのアンケートにより本事業のあり方の検証		目標 ()	(85%)	(85%)	(100%)	()
			実績	96%	100%	100%	
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	特別支援ヘルパーの対応への満足度を査定し、本事業の在り方を検証した。 検証方法としては、特別支援ヘルパーを利用する保護者へアンケートを実施した。選択肢ア・イを選んだ場合を「満足」、選択肢ウ・エを選んだ場合を「不満足」とした。 アンケートの結果は10名中10名が満足と回答し、100%満足で目標を達成した。						

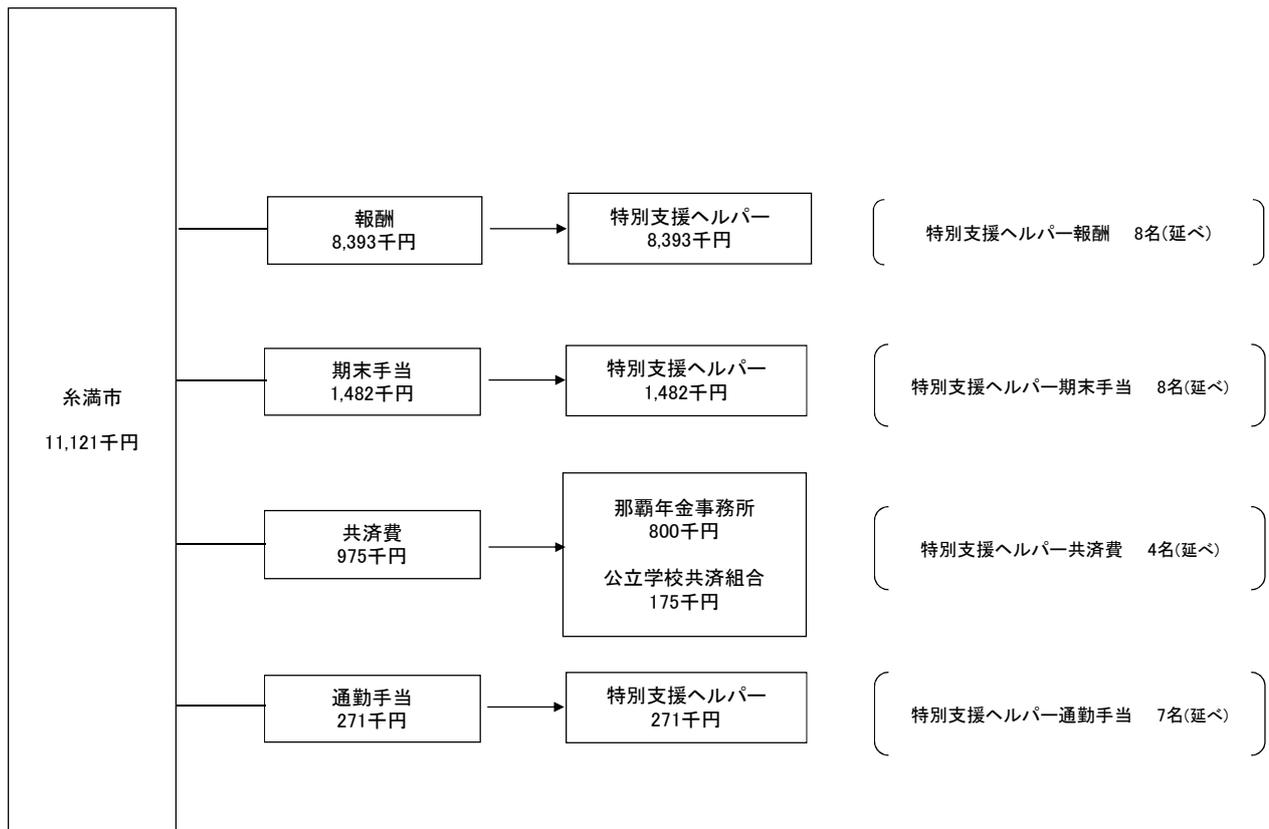
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する園児は年々増加しているが、各園からの配置要望に対して十分対応できていない状況である。 複数の園児に対して特別支援ヘルパーが一人で対応するケースもあり、対応が難しく負担が大きく離職する可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各園からの配置要望に応えるべく継続的・積極的な採用活動が必要。 障害児判定委員会で特別支援ヘルパー配置についての判定を行っているが、委員会開催前に人員配置の適正化に向けた現場からの情報収集を行う必要がある。 状況が深刻化してからでは対応が厳しくなるため、早い段階からの適切な指導・支援を重点的に行い、改善を図る。 特別支援ヘルパーの資質向上のための研修会等を行う必要がある。

今後の取り組み方針

- 現場職員との情報交換を通して、適正な人員配置と効果的な支援体制の構築を図る。
- 関係機関(こども園・幼稚園・小中学校・教育委員会等)との連携を強化し、支援を必要としている子どもたちの早期発見、早期理解、早期教育を支援する体制を充実させていく。
- 特別支援ヘルパーへの研修会を実施し、支援の充実を図る必要がある。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
11,121	11,121	8,896	2,225	0



資金の用途の流れ、費目・点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援ヘルパーの公募・選考を行っており、適切な人材と考えている。 ○費目・用途について支出等に関する書類により確認し適正であった。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑥	情報教育環境づくり事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-イ		
担当部課名	教育委員会 教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Society5.0に対応する教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	子どもたちの情報活用能力の育成や情報教育の充実を図り、ICTの活用による効率的な学習が行えるよう支援体制を整える。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,849	2,873	3,189	3,477	3,517
		(b)予算現額	2,849	2,873	3,228	3,477	3,517
		(c)増減額(b-a)	0	0	39	0	0
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		2,849	2,873	3,228	3,477	3,517
	B. 執行済額		2,829	2,832	3,223	3,475	3,488
	うち交付金充当額		2,263	2,264	2,579	2,780	2,790
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.3%	98.6%	99.8%	99.9%	99.2%
予算の状況の説明		対前年度予算増は、情報教育支援員(会計年度任用職員)の報酬単価アップ(任用歴の増)による。執行率は99.2%となっており、概ね予算計上どおり執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	情報教育支援員配置:1人	目標	(1人)	(1人)	(1人)	(1人)	
		実績	1人	1人	1人	1人	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・情報教育支援員配置人数は目標値を達成した。 ・市内小中学校から毎月、情報教育支援員の派遣要請を受け、計画表を作成し、計画に沿って派遣を実施した。 ・児童生徒や学校職員に対しICT教育に係る学習や技術的・専門的な支援を実施した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	・児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったか(80%以上)を含め、児童生徒へのアンケートにより本事業のあり方の検証	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		90.5%	90.5%	90.8%	
・情報教育支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がったか(80%以上)を含め、教員へのアンケートにより本事業のあり方の検証	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()	
	実績		94.2%	99.1%	99.1%		
進捗状況説明	1.今回からアンケート対象児童を小4～中3までに拡大したが、児童生徒へのアンケートで、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと回答した割合が90.8%と目標を達成している。 2.教職員へのアンケートでは、ICT機器の利用頻度が増えた、幅が広がったとの回答が99.1%と目標とする指標を達成している。オンライン事業やGIGAスクール構想のスタート等により、ほとんどの教職員がICT機器を使用し、操作性向上の必要性を実感して、当支援員のサポートを有用と感じている。						

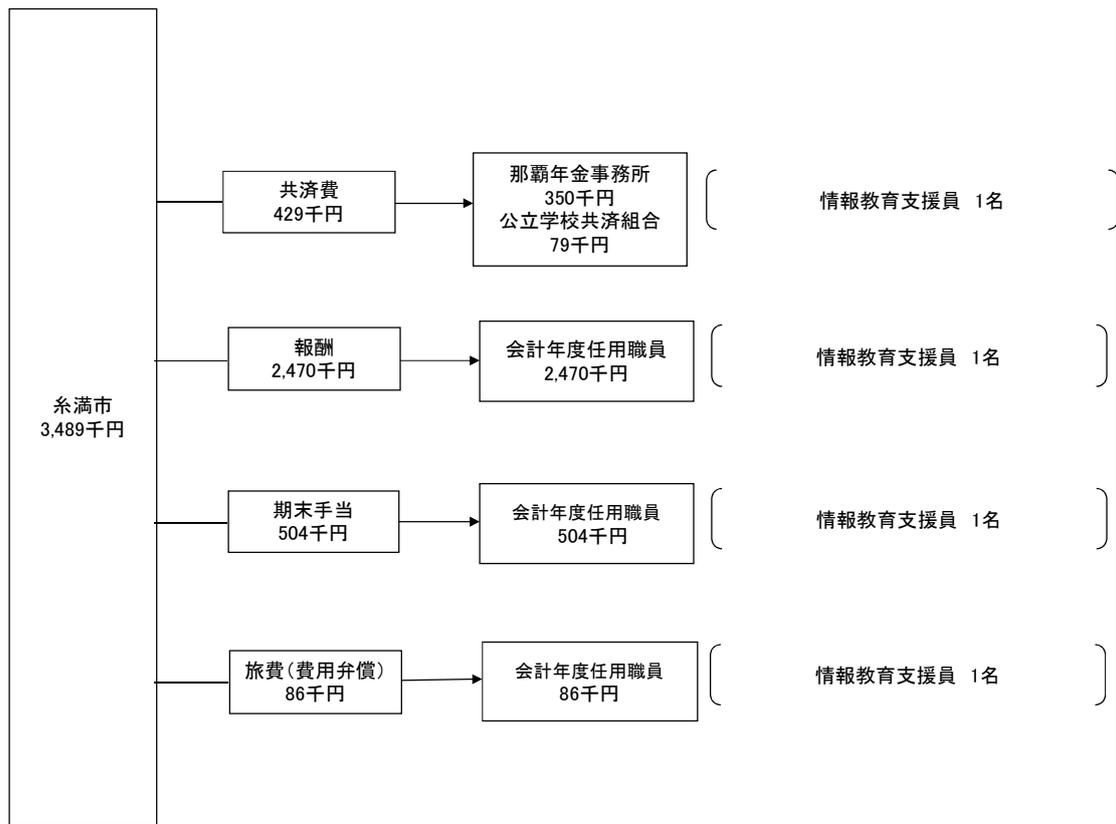
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	引き続き操作技術の習得を支援し、個々の教職員による機器の活用度合いや熟練度の差の解消に努めていく。またR4年度から導入のメクビットや学習者用デジタル教科書等の導入もあることから、今後もICT支援員の必要性は非常に高いと考える。	ICT機器の活用実績の少ない学校に活用支援を行う。各教員の活用能力に応じた操作技術研修、個別指導を行い、全ての教諭の操作技術の向上を図る。また先進地の取り組み事例等の情報提供をするなど、取組拡大につながる支援を図りたい。

今後の取り組み方針

- ・教職員の習熟度による研修会検討、教諭個人への操作指導、要請により授業中の操作支援を行うことで、ICT活用能力向上を図る。
- ・GIGAスクール構想の円滑な推進を図るため、ICT機器の積極的活用の推進、授業等の操作支援、先進地活用例の情報提供、効果的にICT活用拡大につながるような授業展開を図る。
- ・新たなICT取組(メクビット、学習者用デジタル教科書等)について、学校現場、教諭へのサポートを行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,488	3,488	2,790	698	0



資金の用途の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○当支援員は経験豊富で事業目標達成に適切な人材を任用しているため、支出先の選定方法は妥当であると考えます。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○情報教育支援員数は学校数・児童生徒数に対し不足していると考えますが、厳しい財政状況の中で最低限必要な予算が確保できた。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、当支援員を小中学校へ派遣し、ICT教育関係の支援を行うので、必要となる項目に限定されており、適切であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑦	糸満市小中学校ICT教育強化環境整備事業(電子黒板購入)	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-イ			
担当部課名	教育委員会 教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	令和4~令和7年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Society5.0に対応する教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	不足している電子黒板を購入し、特別支援教室及び音楽・理科教室等におけるICT教育強化を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		59,904				
			20,922				
			▲ 38,982				
			0				
			20,922				
	B. 執行済額		20,922				
	うち交付金充当額		16,737				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明		入札残額を補正減額し、執行率は100%であり、予算通りの事業執行となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	電子黒板不足台数の購入 64台	目標	(64台)				
		実績	64台				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・電子黒板未整備の教室等に液晶型電子黒板64台を整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度		目標値(年度)	
	児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったか(80%以上)を含め、児童生徒へのアンケートにより本事業のあり方の検証	目標	()	(80%)			()
		実績		90.8%			
		目標	()				()
		実績					
	進捗状況説明	・児童生徒へのアンケート結果は電子黒板を使った事業がわかりやすいとの意見が目標値を超えて90.8%となり、ICT教材の効果が確認できる。 ※参考: 教諭に「新型の液晶型電子黒板は従来のプロジェクター型電子黒板よりも生徒の理解向上に適しているか」とアンケートをした結果、「とても適している」「少し適している」の回答率は94.6%であった。					

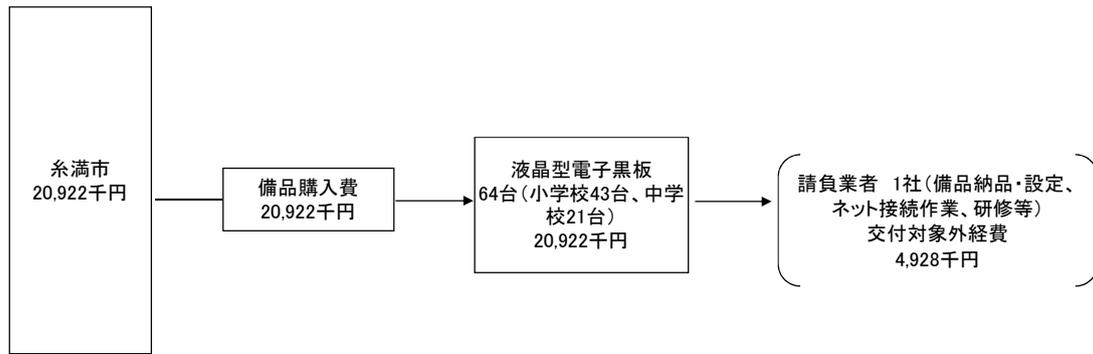
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	児童生徒・教諭へのアンケートにより、液晶型電子黒板の有効性が概ね確認できたが、高機能を有効活用するように学校へ情報提供、活用の支援を行っていく。	個々の教員の操作性習熟度に差があると考えられるので、個別の活用支援や研修、活用情報提供、タブレットとの連携支援等を行い、高性能を授業に役立てるよう支援していく。

今後の取り組み方針

- ・教職員の習熟度による研修会検討、教諭個人への操作指導、要請により授業中の操作支援を行うことで、ICT活用能力向上を図る。
- ・タブレットとの連携の先進地活用例の情報提供等を行い、効果的なICT活用となるように推進する。
- ・新たなICT取組(メクビット、学習者用デジタル教科書等)と電子黒板との連携について、学校現場、教諭へのサポートを行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
25,850	20,922	16,737	4,185	4,928



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、本市の指名業者から入札で決定した請負者なので、選定方法は妥当であるとする。 ○予算よりも執行額が大きく落ちたのは入札によるため。 ○費目・使途については、電子黒板と書画カメラ、周辺機器との接続コード類であり、授業に必要なもので適切であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	運動公園・体育施設機能強化事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(9)-ア	
担当部課名	建設部 建設課	事業実施(予定)年度	平成24～令和8年度	沖縄振興基本方針該当箇所	スポーツ関連産業の振興と地域の活性化		
事業内容	スポーツ観光の一層の充実を図るため、本市の拠点施設である運動公園・体育施設の機能強化を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	80,460	9,130	28,020	9,185	259,514
		(b) 予算現額	80,460	9,130	28,020	117,777	262,160
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	108,592	2,646
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	80,460	9,130	28,020	117,777	262,160
	執行状況	B. 執行済額	77,770	9,130	25,520	117,634	262,160
		うち交付金充当額	62,216	7,304	20,416	94,107	209,727
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	96.7%	100.0%	91.1%	99.9%	100.0%
予算の状況の説明	令和4年度は執行率が100%となっており、当初計画通りに予算執行することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	・西崎運動公園芝生年間管理業務	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	・西崎球場整備工事(防球ネット設置、バックネットラバー整備、観覧席防球ネット設置)	目標	()	()	(実施)	(実施)	
実績				実施	実施		
達成状況説明	・西崎陸上競技場・球場の芝管理を実施した。 ・当初計画通りに西崎球場整備を行うことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	合宿誘致件数13件	目標	()	(13件)	(13件)	(13件)	()
		実績		1件	3件	8件	
	プロ野球や社会人野球キャンプの誘致。	目標	()	()	()	(誘致)	()
実績					新規チーム誘致		
進捗状況説明	・西崎陸上競技場及び西崎球場の合宿数増加に向けて取り組んだが、当初目標13団体の合宿誘致に対し、8団体の合宿であった。新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度から合宿件数が減少していたが、コロナ禍における行動制限の緩和等により、目標値に近づきつつある。						

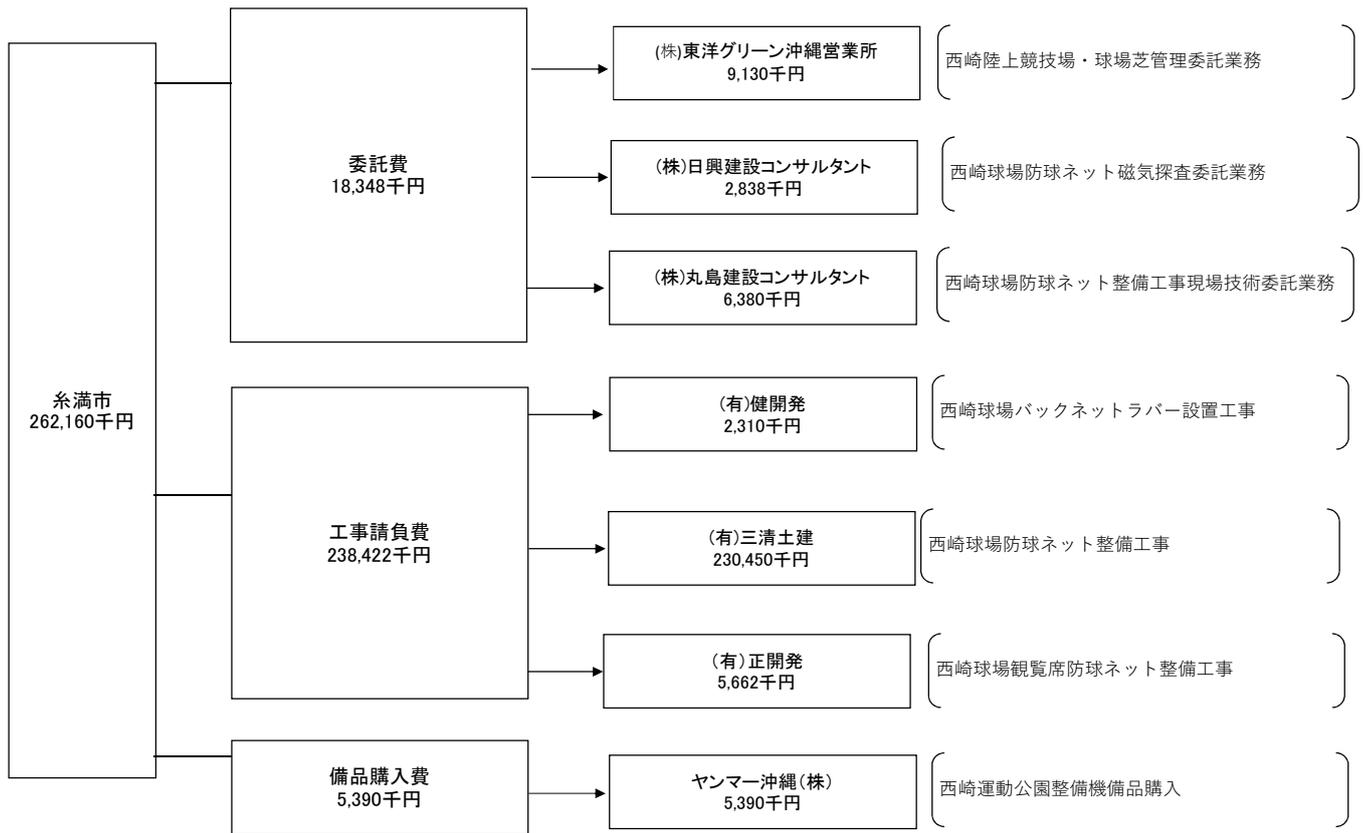
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 西崎運動公園陸上競技場等の芝管理及び西崎球場整備工事の実施を行ったことから、アマチュアスポーツ利用者の利便性向上は図られている。 合宿誘致件数13件の成果目標に対し、令和2年度1件、令和3年度3件と、目標値に達していないことから成果目標の達成に向けて利用者の確保に取り組む必要がある。特に令和2・3年度においては、新型コロナウイルス感染症による影響があり誘致が厳しい状況だったが、令和4年度からはコロナ禍における行動制限の緩和等により、増加傾向にある。 西崎球場の防球ネット工事が完了し、硬式野球の試合が実施できることとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> アマチュアスポーツ利用者の利用増が図られつつある現状において、実績を基に施設の利用者増に繋げるべく、シーズンオフ時期の合宿誘致強化に取り組む必要がある。 施設機能が向上しており、従来と比較し硬式野球の試合等も実施できる環境が整ったことから周知が必要となる。

今後の取り組み方針

・アフターコロナに向けて、これまでの合宿誘致実績及び西崎運動公園施設の整備や芝管理により施設が機能強化された部分のPRを行い、合宿誘致に取り組んでいく。
 ・施設の機能強化等を行うことで、利便性の向上や安心安全な合宿誘致に取り組んでいく。
 ・プロ野球及び、Jリーグのチームが合宿を行っており、またプロの試合も実施していることをHP等でPRしていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
262,160	262,160	209,727	52,433	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令第167条の2第1項第2号を根拠とした現場に精通した者による随意契約等の適正な手続きのもとに実施されており、妥当である。 ○執行率100%であり、適正な規模であった。 ○費目・用途については、額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	母子生活支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(1)-ウ	
担当課名	こども未来部 こども未来課	事業実施(予定)年度	平成29～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	ひとり親家庭等の困難を抱える保護者への支援 Ⅲ-4-1	
事業内容	支援が必要なひとり親家庭の中でも自立する意欲のある家庭に対し、住宅支援や就労支援等、自立に向けた支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a)当初予算額	26,082	12,000	20,864	20,864	22,820
		(b)予算現額	26,082	12,000	20,864	20,864	22,820
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	26,082	12,000	20,864	20,864	22,820
	B. 執行済額		21,755	10,961	17,853	17,561	17,506
	うち交付金充当額		17,404	8,768	14,282	14,049	14,004
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		83.4%	91.3%	85.6%	84.2%	76.7%
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・不用額5,314千円について、住宅等支援の不用額が大きく占めている。 ・相談者からの相談を受け、住宅等支援に繋げる方向で関わっていたにも関わらず、申込までに至らなかったり、相談者の状況が落ち着かず、相談が長期化するなど、支援可否の決定を行うにあたり、相談者の置かれている状況に左右され、時間を要したことによるものである。 					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	住宅支援	目標	()	()	()	(7世帯)	
		実績				3世帯	
	相談件数	目標	()	()	()	(5回)	
		実績				7回	
	各種講座(技術力・子育て等)の開催	目標	()	()	()	(5回)	
		実績				7回	
	子どもへの学習支援	目標	()	()	()	(12か月)	
		実績				12か月	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅支援の目標件数は7世帯であったが、コロナ交付金等の支援金があったこと等から目標に到達せず3世帯であった。3世帯に対し住宅支援を行いながら、就労支援、家計管理についての助言等を行った。 ・令和4年度において、ひとり親家庭からの生活支援に関する相談は、延べ249件であり、目標に到達できなかった。 ・転職・就職に有利なパソコン技術の習得を目的に、「パソコン基礎講座」及び「パソコン認定受験講座」等を実施し、併せて7回の講座を開催したことから、目標を達成した。 ・親子交流事業を通して、支援世帯間の交流を図るとともに、ひとり親世帯の児童を対象に12か月間「学習支援」を行うことが出来た。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	支援終了者のうち自立につながった割合	目標	()	自立割合100%以上	自立割合100%以上	自立割合100%以上	()
		実績			自立割合75%	自立割合100%	自立割合100%
	就労率	目標	()	()	()	(100%)	()
実績					100%		

進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・実態調査の結果を踏まえ、住宅支援や就労支援、債務整理等により自立計画の道筋が立てられる方を対象に、支援決定委員会で審議を行い、3世帯の支援を決定し、令和4年度中に1世帯が自立し、支援終了となった(自立割合:100%)。 ・支援した世帯の母親全員が就労したことから就労率が100%となり、目標が達成できた。
--------	--

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に支援した世帯数は3世帯と目標達成に至らなかった。 ・相談に訪れるひとり親は支援が不足している傾向にあり、仕事又は求職しながら一人で家事・育児をこなし、時間的な融通がききにくく、住宅等支援の申込までに長時間を要する。 ・これまで同様、住宅支援、養育費、生計維持についての相談が多いことから、コロナや物価上昇により、ひとり親家庭の家計に大きく影響を及ぼしているものと思料される。 ・支援をする中で、ひとり親家庭は多様な課題を抱えていることがうかがえ、関係機関の実施する支援策に早期につなげることが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当該事業によるひとり親家庭の自立に向けた支援を広めるべく、引き続き情報を広く発信する。 ・時間に制約のあるひとり親の手続きをサポートし、早期に住宅等支援に繋げる。 ・ひとり親家庭の抱える様々な課題を早期に対応すべく、ひとり親家庭等の支援に携わる関係機関との連携を密にする必要がある。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・当該事業の取り組みについて広く情報発信を行うことで、悩んでいるひとり親家庭の相談をより多く受け、必要な支援を実施する。 ・ひとり親家庭等の支援に携わる関係機関との連携を強化し、当該事業のみならず、関係機関が実施するひとり親家庭支援策に早期につなげていく。 ・ひとり親家庭が早期に住宅等支援につながるよう、手続きのサポートを実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
17,788	17,506	14,004	3,502	282


```

graph LR
    A[糸満市  
17,506千円] --> B[委託料  
17,506千円]
    B --> C[公益社団法人  
沖縄県母子寡婦福祉連合会  
17,506千円]
    C --- D[母子生活支援事業  
交付対象外経費 敷金282千円]
  
```

資金の流れの点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○委託事業者は、本県の母子、父子及び寡婦家庭に対して、沖縄県から各種事業を受託し実施しており、本事業を効果的に実施できる機関が当該事業者以外にはないことから、選定については妥当であると考えられる。 ○予算規模は、事業に必要な見積りにより支出しており適正であった。 ○費目、用途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

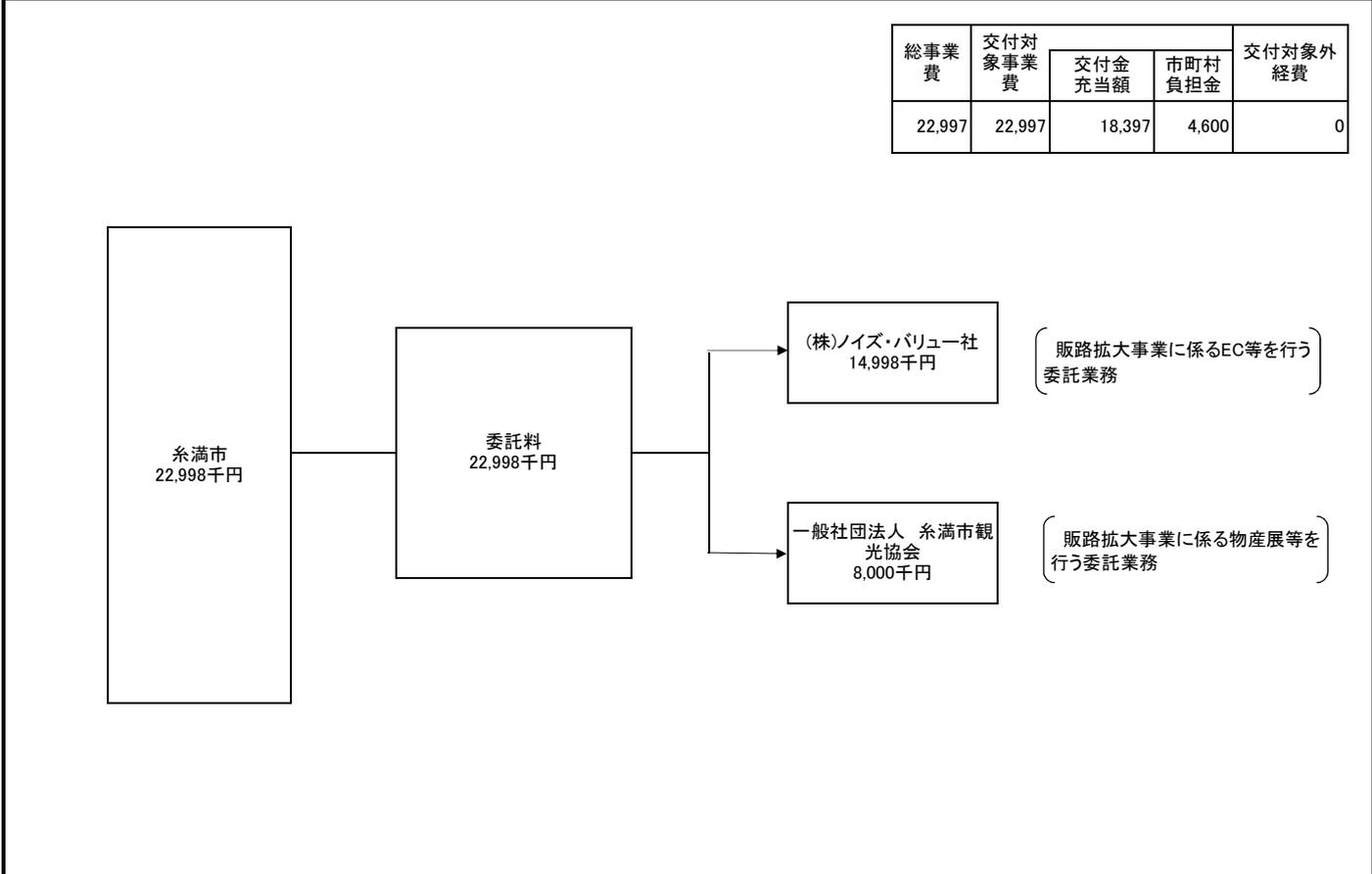
市町村名		糸満市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	地場産品販路拡大事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(8)-イ		
担当部課名	経済部 商工水産課	事業実施 (予定)年度	平成24~令和8年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	県産品の売上げ拡大促進 Ⅲ-1-(4)		
事業内容	物産展及びフェアの開催や、海外への販路の可能性を調査し、市内中小企業の販路拡大を支援することで売り上げの向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	23,000				
		(b)予算現額	23,000				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	0				
	A. 計(b+d)		23,000				
	B. 執行済額		22,997				
	うち交付金充当額		18,397				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!		#DIV/0!
予算の状況の説明		令和4年度は執行率が100%となっており、当初計画通りに予算執行することができた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	物産展の開催 4回	目標	(4回)	()	()	()	
		実績	4回				
	糸満フェアの開催 1回	目標	(1回)	()	()	()	
		実績	1回				
達成状況説明	①物産展の開催(出展含む) 厚木市、仙台市、網走市、都農町において物産展の出展を行い、県外へ糸満市の認知度及び地場産品PRを図った。 ②糸満フェアの開催 糸満市道の駅において「糸満フェア」を行い、市内や市外に向けて糸満市の認知度及び地場産品PRを図った。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	販促活動を支援する講習の開催 4回以上 (令和4年度から)	目標	()	(4回)	()	()	()
		実績		10回			
	物産展の開催	目標	()	(4回)	()	()	()
		実績		5回			
	糸満フェアの開催	目標	()	(1回)	()	()	()
		実績		1回			
	糸満フェアの来場者数 20,000人	目標	()	(20,000人)	()	()	()
実績			22,800人				

進捗状況説明	<p>①糸満市地場産品等販路拡大事業委託契約(EC等) 今年度においては事業者の「稼ぐ力」をつけるため、ECやSNS、ブランディング等インプットをメインに行った。委託事業社と調整うえ当初より講習を多めに開催することができ、目標を達成出来た。</p> <p>②糸満市地場産品等販路拡大事業委託契約(物産展等) コロナ禍においても周知活動や、姉妹都市を呼ぶことで集客を図り、目標数を上回ることが出来た。</p>
--------	---

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①糸満市地場産品等販路拡大事業(EC等) コロナ禍の影響や、セミナーの趣旨が適切に伝わっていない状況もあり、本事業へ参加しない事業者があった。</p> <p>②糸満市地場産品等販路拡大事業(物産展等) 上記①の事業を物産展事業に活かしているかの検証が不十分であった。</p>	<p>①糸満市地場産品等販路拡大事業委託契約(EC等) セミナー内容の周知を図り、多くの事業者が利用しやすいようにする。また、令和4年度に実施した、セミナー内容を参加していない事業者へ共有し、PRを行う必要がある。</p> <p>②糸満市地場産品等販路拡大事業委託契約(物産展等) セミナーに参加している事業者へ積極的に物産展に関わっていただけよう調整が必要となる。</p>

今後の取り組み方針
<p>①糸満市地場産品等販路拡大事業(EC等) 令和4年度よりも多くの事業者へ参加頂くため、商工会等と協力し事業者への説明の機会をいただき、令和4年度の取組等を説明する。</p> <p>②糸満市地場産品等販路拡大事業(物産展等) 上記①事業に参加する事業者へ物産展の案内をすると共に、市においても物産展のPRを実施し、糸満市の特産品を多くの方に手に取って頂く機会を創出する。</p>

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・点検項目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により組織、実績、知識、機動力を勘案したうえで選定しており、妥当であると考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、執行率も約100%であることから、概ね適正な規模と考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○本事業の実施業務内容を精査したところ、事業目的に即しており、適正であった。